



産業建設

常任委員会

産業建設常任委員会に付託を受けた
議案について審査した結果、
主に下記内容が議論されました。

- 付託 議案6件
 - 報告3件(議決不要)
 - 追加議案2件
- 委員長/木下 敬夫
 - 副委員長/久保 吉彦
 - 委員/佐藤 喜典、杉木 勉、高僧 弘、今田 勇雄、杉本 忠一

- 【議案第75号】**
平成28年度七尾市一般会計補正予算(第4号)
◆担い手育成・集落営農推進対策事業費について
- 問 青年就農給付金事業について、新規採択者が2名いるが、どこから来た就農者なのか。
 - 答 1人は輪島市門前の方である。七尾市内に移住して農業を開始している。もう一人は中島町浜田の方である。
 - 問 こちらが望むのは、やはり七尾市外から来て、後継していただくことをお願いしたい。
 - 答 今後、市外から来ていただくように努力をしていく。



新規就農者の様子

- 【議案第97号、第98号】**
・七尾市中島地区観光施設条例の一部改正
・財産の貸付
◆万葉倶楽部の跡地利用について
- 問 バイテックファームの企業経営状態はどうなのか。
 - 答 東証一部上場の企業で、植物工場を15社目標としており、健全な企業と判断している。
 - 問 七尾に第2、第3の植物工場を誘致できるよう、皆さんの交流の仕方(企業訪問など)で頑張ってください。
 - 答 この中島の土地に研究所を置くので、果実は七尾市に一番受けられるものだと考えている。七尾市に第2、第3の植物工場が来た時にはしっかりと研究内容を反映してほしい。
 - 問 JA能登わかばは、興味を示しているのか。
 - 答 レタス栽培の市場が少ないことから、JA能登わかばと連携することを確認しており、販路拡大に努めていくことになっている。

【行政視察報告】
埼玉県和光市 7月20日(火)

埼玉県和光市において、地域ブランド推進事業についての視察研修を行った。産業支援課職員より、和光市産業振興計画の中の地域ブランドの創出について説明を受けた。和光市のブランド戦略は、市民、企業、行政の力を結集し、市内産業特に地元農業の活性化と和光市全体のイメージの向上を目的とし、将来は「賑わいのあるまち 和光」を目指している。また、駅前には行政の力を借りずに運営している「アンテナショップひまわり」があり、和光市のイメージキャラクターグッズや和光市認定ブランドのお菓子や加工品、野菜等が店内にとりこめられ、駅前の賑わいを創出していた。



教育民生

常任委員会

教育民生常任委員会に付託を受けた
議案について審査した結果、
主に下記内容が議論されました。

- 付託 議案7件
 - 報告2件(議決不要)
- 委員長/永崎 陽
 - 副委員長/松本 精一
 - 委員/山添 和良、伊藤 厚子、大林 吉正、石川 邦彦、中西 庸介、木下 孝輝

- 【議案第75号】**
平成28年度七尾市一般会計補正予算(第4号)
◆生活保護費について
- 問 生活保護費では、住宅補助や本来の生活のための保護もあるが、資産活用か処分価値の問題は生じていないか。ケースワーカーが行う査定時に、ただ単に生活保護と言っても、資産活用が大なのか処分価値が大なのか、という議論の中で決定していると思うが、その辺はどうなっているのか。
 - 答 生活保護は、保護の補足性の原理があり、土地や建物を持った状態で保護申請したときに、直ぐ資産活用できるのかというと、なかなか需要と供給の問題もあるが、生活に困っているということなので、保護を開始したうえで売却指導をしている。ただ、持家の場合、十分活用されているということで、そこは認めたくえで対応している。
 - 問 持家ならば活用価値は大だが、土地の場合は後から売るとなるとして保護するのか。
 - 答 基本、土地はなかなか売れない。ただ、保護の廃止後5年ほどは、当然土地が売れたら返してもらおう形で対応している。

【行政視察報告】
広島県福山市 7月28日(木)
高齢者おでかけ支援事業について

福山市は、高齢化や公共交通機関が利用しにくい等の理由により、高齢者の方々が地域活動や社会参加をしたり、通院や買い物等をするのが困難な地域がある。その地域で、小学校区を単位として地元住民・団体の方々が主体となって、高齢者の方々を無償で送迎する「高齢者おでかけ支援事業」を平成21年度から開始している。この事業は、地元町会や福祉団体、ボランティア等の「地域の有志の会」が主体となって運行業務を行い、市は車両のリース、第三者についての業務上の責任を負うというものであり、元気な高齢者が高齢化社会を支える新しい視点からの取り組みが行われていた。



- 【議案第75号】**
平成28年度七尾市一般会計補正予算(第4号)
◆中学校再編整備事業費について
- 問 七尾中学校の部活ユニフォームと女子生徒のネクタイの購入だが、100%市で補助するのか。
 - 答 新2、3年生になる生徒に対し100%市が提供していく。
 - 問 今年度で御祓、朝日、田鶴浜の中学校が廃校となる。備品関係がかなり出くると思うが、寄付された備品はどう扱いをするのか。また、調査してあるのか。
 - 答 調査済みであり、寄付のものについては新しい中学校に持っていく。
 - 問 机などは全て新調するのか。
 - 答 朝日中学校で現在使っている机は新しく、それを中心に使い、不足分については購入する。

岡山県高梁市 7月29日(金)
少子化対策事業について

高梁市は、人口推計による生産年齢人口の減少を危機的状況と捉え、子育てに手厚い制度を設け、若者の定住を進めている。特に、第3子以降の出産祝い金を平成27年度から変更し、第1子、第2子の2万円に対して、第3子50万円、第4子以降100万円と第3子以降について大幅に増額している。支給方法についても、第3子以降については、出生時1/5、1歳到達時1/5、小学校入学時2/5と段階的に支給することで、子育て世代の移住についても対応可能な方法を取っている。また、18歳までの医療費窓口無料化など、いろいろな施策とPRにより人口減少緩和に一定の効果が出ていた。

